

三好市「旧東祖谷山村」の峠とお堂と地蔵信仰

民俗班（徳島民俗学会）

橘 禎男*¹ 坂本 憲一*²

要旨： 1,000m を超える峠を越えなければ他地域へ出られなかった祖谷地方。そこに暮らしてきた人々の民俗に触れたいと思い、峠とお堂と石仏に視点を置いて今回の調査を実施した。その結果、峠道の果たしてきた役割の大きさがそこに立てられた石仏からわかったこと、そして弥勒菩薩を地蔵尊として祀ってきた理由が、祖谷山一揆との関連の中で見えてきたことが調査の成果として上げられるだろう。

キーワード： 峠、お堂、地蔵信仰、弥勒菩薩

1. はじめに

徳島県の西南端に位置し、平成大合併で三好市となった旧東祖谷山村は、北は東みよし町三加茂、東はつるぎ町半田と一字、そして美馬市木屋平に接し、西は三好市西祖谷、南は那賀町木沢、木頭と高知県大豊町、そして香美市物部に接する面積228.56km²の山村である。

周囲を劔山、三嶺、寒峰、矢筈山など1,500m を超える山々に囲まれていて、平家伝説が根付いていることでも知られ、葬制や農具などで秘境といわれてきた山村特有の民俗を今に伝えている地域である。

主な交通路は、国道439号が祖谷川に沿って東西に伸び、京柱峠で高知県に接続している。また旧西祖谷山村とは県道山城東祖谷山線につながり、落合から北へは県道三加茂東祖谷山線が伸びて東みよし町と接続している。さらに菅生から小島峠を越えてつるぎ町に出る県道菅生伊良原線もある。

今回の調査は、徒歩が唯一の交通手段であった時代の峠道に焦点を当てて、そのコースと現状、並び

に峠道に残る地蔵尊を中心とした石仏を明らかにするために行った。併せて、地区内に残るお堂の石仏と信仰についてもふれることにした。調査は平成18年7月28日から12月17日の間の18日間である。

2. 旧東祖谷山村の峠

1) 東祖谷の峠一覧

周囲を1,500m 以上の山に囲まれた旧東祖谷山村は、地区外との交流はすべて峠道に頼らざるをえなかった。それらの峠一覧を（表1）に、その所在位置を（図1）に示した。これからわかるように、地区内の井ノ丸峠、三宝峠、堀切峠、そして西祖谷に接するトゴエを除いた19峠はすべて1,000m を超える高い位置にあり、外部との交通はどの方面に行くにもこれらの峠を越えなければならなかった。

峠道の石造物では、7峠に10体の地蔵尊が祀られていた。これは、地蔵尊は旅人を守ってくれるという信仰が、本村においても根付いていたことを示している。また大師像が3峠に祀られていたが、落合峠と寒峰峠では他の場所に移され、現在あるのは亀尻峠だけである。

* 1 徳島市国府町日開42-5

* 2 阿波市市場町八幡字町屋敷41

表1 旧東祖谷山村の峠一覧

番号	峠名	標高	連絡地		石仏の有無と種類	備考
1	棧敷峠	1,020	深淵	加茂	地蔵尊 寛政5	(1793)
2	落合峠	1,520	落合	加茂	地蔵尊 寛政11 地蔵尊 嘉永7 大師 不動尊	(1854) (1799)
3	深淵峠	1,280	深淵	半田		
4	小島峠	1,320	菅生	一字	地蔵尊 天明7 不動尊 観世音菩薩	(1787)
5	丸笹峠	1,455	見越	一字		
6	見越	1,450	名頃	川上	不動尊	
7	ジロウギユウ峠	1,775	木屋平	高知		
8	天狗峠(イザリ峠)	1,780	久保	物部	地蔵尊	
9	亀尻峠	1,210	阿佐	西山	地蔵尊 明治20 大師 安政3	(1887) (1856)
10	笹峠(矢筈峠)	1,258	小川	物部		
11	京柱峠	1,150	檜原	西峰		
12	丸山峠(熊谷峠)	1,110	善徳	有瀬	地蔵尊 安政2	(1855)
13	トゴエ	860	今井	閑定	地蔵尊 文久1	(1861)
14	井ノ丸峠	920	和田	大枝		
15	三宝峠	890	大西	大枝		三宝神社
16	ニレンタ(万野峠)	1,246	高野	日比原		
17	四ツ方峠	1,120	佐野	小祖谷		
18	寒峰峠	1,495	大枝	辻	大師 手水石	大師堂跡
19	丸石峠	1,580	名頃	那賀		
20	白井谷峠	1,210	深淵	春ノ木尾		
21	一ノ谷峠	1,280	深淵	小祖谷		
22	カヤンドウ	1,290	落合	滝下		
23	堀切峠	800	新居屋	梅峰		

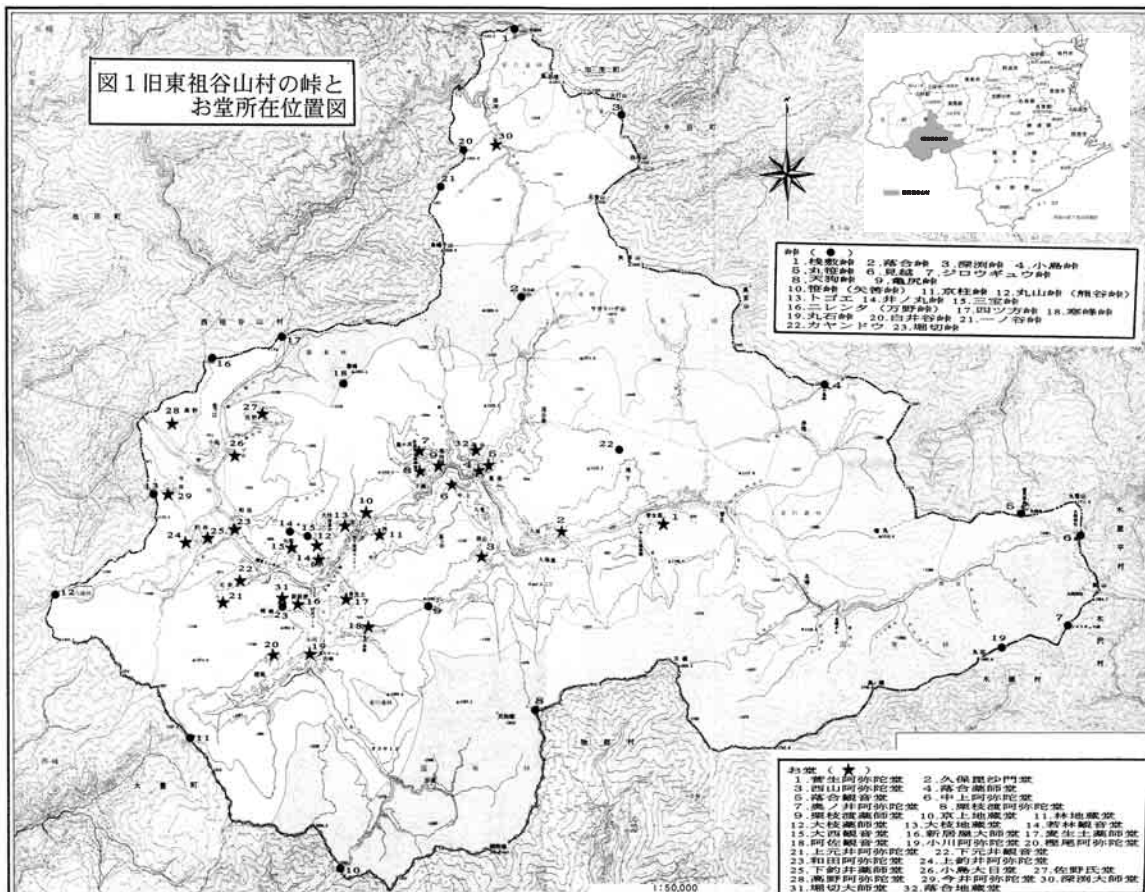


図1 旧東祖谷山村の峠とお堂所在地図

2) 主な峠と石造物

①落合峠 1,520m

深淵、棧敷峠を経て加茂に通じる落合峠は、落合集落から峠までの約4kmの道に、地藏尊4基、大師像と不動明王各1基の石造物があった。現在3基の地藏尊が残っているが、大歩危橋東詰め墓地に移転された「寛政十一年」(1799)の銘がある地藏尊(図2)は、「諸人無難是より里谷峠三十五丁半」と刻まれている。これは道標を兼ねたもので、200年前は落合峠が「里谷峠」と呼ばれていたことを示す貴重な資料である。峠道は県道開通によって廃道となり、石造物も半数が移転された。

②小島峠 1,320m

『阿波志』にも取り上げられた小島峠は、天明7年(1787)建立の半伽像の地藏尊(図3)が立つ。台石に「圓福寺現住宥□法練道乗居士 菅生永之丞室」の銘がある。これは菅生家十一代永之丞の妻が主人の菩提を弔うために立てたものといわれ、氏寺の住職名が刻まれていることでも珍しい石仏である。さらに、地藏尊は右手に錫杖を持つ姿が多いが、この像は右手に大師が持つ五鈷杵を握っているのが特徴である。

菅生から上るルートは、県道開通により利用されなくなったが、ほぼ昔のまま残っていて今も歩くことができる。

③亀尻峠 1,210m

江戸期の紀行文である『祖谷山日記』に登場する亀尻峠は、大師像2基と地藏尊1基が残っている。安政3年(1856)建立の大師像には、京上、小川、西山、阿佐など9集落名が刻まれており、「阿佐左馬之助」の名も見える。「あごなし地藏」(図4)と刻まれた地藏尊は、歯痛によく効くといわれて近年まで参拝者があったという。阿佐から峠に通じる旧祖谷街道は、登山者が時折通るくらいで道はわかりにくい。

④トゴエ 860m

東西祖谷を結ぶトゴエは、亀尻峠に連なる旧祖谷街道の要所で、紀行文や祖谷山一揆の記録にも登場する有名な峠であった。峠には、石臼を転用して造った「文久元年」(1861)銘の地藏尊がある。

数年前からの林道工事で山肌が大きく削られたた



図2 落合峠の地藏尊



図3 小島峠の地藏尊



図4 亀尻峠のあごなし地藏

め、峠の歴史的景観は失われてしまった。(図5)

⑤京柱峠 1,150m

天保13年の祖谷山一揆では、祖谷の農民630人がこの峠を越えて土佐に逃散したと『祖谷の百姓一揆』に記されている。この峠に立つと祖谷・土佐双方の広大な展望を味わえるが、一揆の首謀者3人が10日間さらし首にされたという悲しい歴史も秘めている。石造物はない。

⑥天狗峠 1,780m

四国で最も高位置にある天狗峠は、生活道よりも煙草や焼酎の闇ルートとして、地元の人々の記憶に残っている。近年は剣山から三嶺、天狗塚を結ぶ山岳コースの一部として岳人の評価が高い。

なお、この峠の元の名は「イザリ峠」であったがこの峠名は適切でないとして、国土地理院は平成11年発行の地図から「天狗峠」に変更した。しかし、地元や登山者の間では今も元の名が使われている。

峠には、「奉納地藏」と刻まれた無年紀の地藏尊(図6)が京柱峠の方角に向いて立つ。西山での聞き取りによると、この地藏尊は一揆の首謀者の一人である円之助を供養するために立てられたといわれている。



図5 林道工事で削られたトゴエ



図6 天狗峠の地藏尊

3. お堂と民間信仰

1) 東祖谷のお堂と仏像一覽

『東祖谷山村誌』によると、本村には28のお堂が存在すると記されているが、今回の調査では32のお堂が確認できた。この中には、お堂が壊れたため仏像を収めるための小堂を元の場所に立てた大枝の地藏堂や、比較的新しい落合の地藏堂や堀切峠の大師堂も含まれている。お堂一覽を(表2)に、所在位置を(図1)の峠位置図と併せて示した。

2) 仏像から見た民間信仰

(表2)を見ると、お堂内に祀られている仏像の種類が多いことがわかる。中でも大師像は全体の3/4のお堂に祀られていて、本村における大師信仰の浸透がよくわかる。阿弥陀如来、観世音菩薩、薬師如来などの本尊の脇侍仏として、不動明王と毘沙門天が大部分のお堂に見られることも特徴である。また、地藏菩薩を本尊とするお堂は5つあり、木像の他に石像の地藏尊が11基確認できた。

このことは、住民の多様な願いや祈りがかなうように、諸仏がお堂を中心にしてセットされていることを示している。10人位が輪になって数珠を繰る百万俵や大師講などの行事が、交流と信仰の場の役割を持つお堂で、住民の手で行われてきたことは、東祖谷の民間信仰の特徴といえるだろう。

4. 「弥勒菩薩」の謎

1) 東祖谷に多い弥勒菩薩

『三好郡の石造文化財』によると、旧三好郡内には6基の弥勒菩薩があり、東祖谷には2基あると記されているが、今回の調査で6基の弥勒菩薩(図7)の石像が確認できた。場所は(表2)の通りで、いずれもお堂の境内である。

この内、大枝のものは案内板に「子持地藏」とあり、上記文献のグラビアでも「地藏菩薩」となっている。また、小川の場合は一揆との関係を記した説明板があり、ここでも「地藏尊」と標記されている。

表2 旧東祖谷山村のお堂と仏像一覧

番号	お堂名	所在地	仏 像 (お 堂 内)								お 堂 外 (石仏)	
			阿弥陀如来	弘法大師	地藏菩薩	薬師如来	観音菩薩	不動明王	毘沙門天	その他		
1	阿弥陀堂	菅生	●									
2	毘沙門堂	久保	○	○						●		弥勒菩薩
3	阿弥陀堂	西山	●	○	□				○	○		弥勒菩薩
4	薬師堂	落合		○		●					十二神将 日光月光	
5	観音堂	落合					●					
6	阿弥陀堂	中上	●	○					○	○		
7	阿弥陀堂	奥ノ井	●	○					○	○		
8	阿弥陀堂	栗枝渡	●	○				○	○	○	勢至菩薩	
9	薬師堂	栗枝渡				●				○		
10	地藏堂	京上		○	●					○		地藏菩薩
11	地藏堂	林		○	●				○	○		
12	薬師堂	大枝		○	□	●			○	○		
13	地藏堂	大枝			●				○	○		弥勒菩薩
14	観音堂	若林					●		○	○		
15	観音堂	大西		○			●					弥勒菩薩 観世音菩薩
16	大師堂	新居屋		●					○			
17	薬師堂	麦生土		○		●			○	○		庚申塔
18	観音堂	阿佐		○	○		●		○	○		
19	阿弥陀堂	小川	●	○								弥勒菩薩
20	阿弥陀堂	檜尾	●	○					○	○		弥勒菩薩
21	阿弥陀堂	下元井	●	○	□				□	○		観世音菩薩 庚申塔
22	観音堂	下元井		○	□		●		○	○		
23	阿弥陀堂	和田	●	○					○	○		
24	阿弥陀堂	上釣井	●	○					○	○		
25	薬師堂	下釣井		○		●			○	○	月光十二神将	
26	大日堂	小島			■						比丘形像	
27	氏 堂	佐野	●	□				□	□			
28	阿弥陀堂	高野	●	○					○	○		
29	阿弥陀堂	今井	●						○	○		庚申塔
30	大師堂	深測		●								
31	堀切大師堂	新居屋		■	□		□		○			虚空蔵菩薩
32	地藏堂	落合			■							
	合 計		14	24	11	5	8	21	21			弥勒菩薩 6 庚申塔 3 観世音菩薩 2 虚空蔵菩薩 1 地藏菩薩 1

(注) ●○：木像 ■□：石像 (●■は本尊)



図7 小川の弥勒菩薩

さらに西山の弥勒菩薩も、地元では「お地藏さん」と呼んでいる。なぜ、東祖谷では弥勒菩薩を地藏尊と一緒にしてきたのだろうか。

2) 「弥勒菩薩を地藏尊とすること」の考察

弥勒菩薩は、釈迦滅後56億7千万年後にこの世に現れて、衆生を救ってくれると信じられている仏で、「未来仏」ともいわれている。弥勒信仰は奈良時代に始まり、近世では石像も多く造られるようになったが、県内の石像数は地藏尊や大師像に比べて非常に少ない。

天保13年の祖谷山一揆の首謀者として、西山の円之助、小川の武右衛門、大枝の国五郎の名が『阿波の百姓一揆』に出てくるが、3人の集落のお堂境内にはいずれも弥勒菩薩が祀られている。西山の石像台石には「円之助」の名があり、小川の台石には「浅蔵父」の銘がある。説明板によると、これは「武右衛門」を指すことがわかる。大枝の弥勒菩薩には、国五郎との関連を示す銘文はないが、地元では国五郎を祀っていると言い伝えられている。

これらを総合すると、当時一揆の首謀者を祀ることは許されなかったもので、誰のものか判らないよう

に弥勒菩薩を立てて、江戸後期に多数の石仏が造られて信仰が広がっていた地藏尊として祀ってきたのではなかろうか。弥勒菩薩に頭巾を被せて前掛けをつけると、地藏尊と見分けることは難しい。

小川の弥勒菩薩の台石に「天保13年」と「明治2年」の2つの年紀があることは、明治になってから台石の銘文が刻まれたと推察することができる。

また弥勒菩薩を選んだ理由は、村を救うために犠牲となった3人に対して、未来に再び現れて村を救ってほしいという村民の熱い想いが込められていたのではなかろうか。おそらく住職に相談したと考えられるが、仏教の教義を解しつつ現実的な対応をとった、理と情を備えた当時の村民の姿をここに見ることができる。

6. おわりに

今回の調査では、峠道とお堂を中心とした信仰を見てきたが、弥勒菩薩に遭遇できたことは大きな収穫であった。厳しい環境の中で生きてきた祖谷の先人の気高さにふれたように思い強い感銘を受けた。

過疎と高齢化の進行で、お堂の維持や行事の継続が困難になった事例にも遭遇したが、落合や菅生では活性化対策に熱心に取り組んでいる姿にもふれることができた。

遠隔地でしかも広範囲であったが、地元のご協力により無事調査を終えることができた。親切なご教示をいただいたり、現地まで案内して下さった地元の皆様に心からお礼を申し上げ結びとしたい。

参考文献

1. 東祖谷山村誌. 東祖谷山村 (1978).
2. 三好郡の石造文化財. 三好郡郷土史研究会 (1998).
3. 三好郡のお堂とお庵. 三好郡郷土史研究会 (2001).
4. 阿波の百姓一揆. 三好昭一郎 (1970).
5. 日本仏像事典. 真鍋俊照 (2004).
6. 阿波の峠と里山歩き. 阿波の峠を歩く会 (2006).